



第3章

由布市の概況

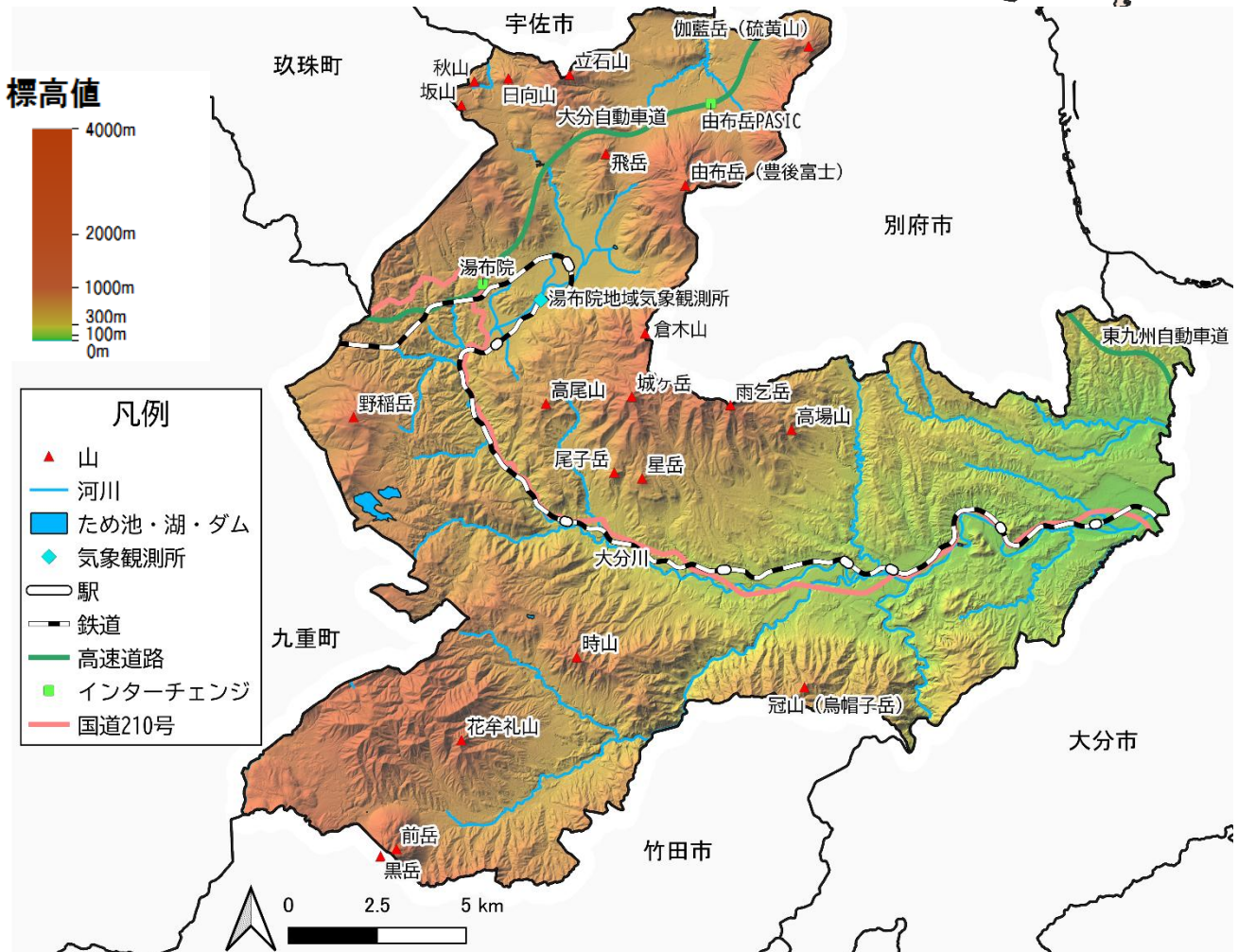
第3章では、気候変動が市民生活や地域にどのような影響を及ぼす可能性があるか考えるための基礎情報として、由布市の自然的・社会的・経済的条件を整理しています。

1 | 自然的条件

(1) 位置・地勢

由布市は、大分県のほぼ中央に位置し、北は宇佐市と別府市、南は竹田市、東は大分市、西は玖珠郡（玖珠町、九重町）に接しています。市域は、東西 24.7km、南北 23.4km にわたっており、総面積は 319km² です。

北部から南西部にかけては由布岳や黒岳など 1,000m 級の山々が連なり、由布岳のふもとには標高約 450m の由布院盆地が形成されています。これらの山々を源とする河川が合流し、大分川となって東西に流れています。中央部から東部にかけては、山麓地帯と大分川からの河岸段丘（川の流れに沿ってつくられた階段状の地形）が広がっています。



[資料：国土交通省 国土数値情報]

図 3-1 由布市の位置及び地勢図

(2) 気象条件

標高の高い由布院盆地に代表される西部や北部は、気温の日較差（1日のうちの最高気温と最低気温の差）が大きく、冬には最低気温が氷点下になることも多く、積雪に見舞われる内陸性気候です。中央部から東部にかけての標高の低い地域は、雨が少なく温暖な瀬戸内気候となっています。

市内の気象観測所として、湯布院地域気象観測所（標高435m）が設置されています。湯布院と大分地方気象台の月平均気温を比較すると、山間地の湯布院の方が2～4℃ほど低くなっています。降水量は、大分よりも湯布院の方が多傾向にあります。日照時間と平均風速は、大分と比較して山間部に位置する湯布院の方が少なくなっています。

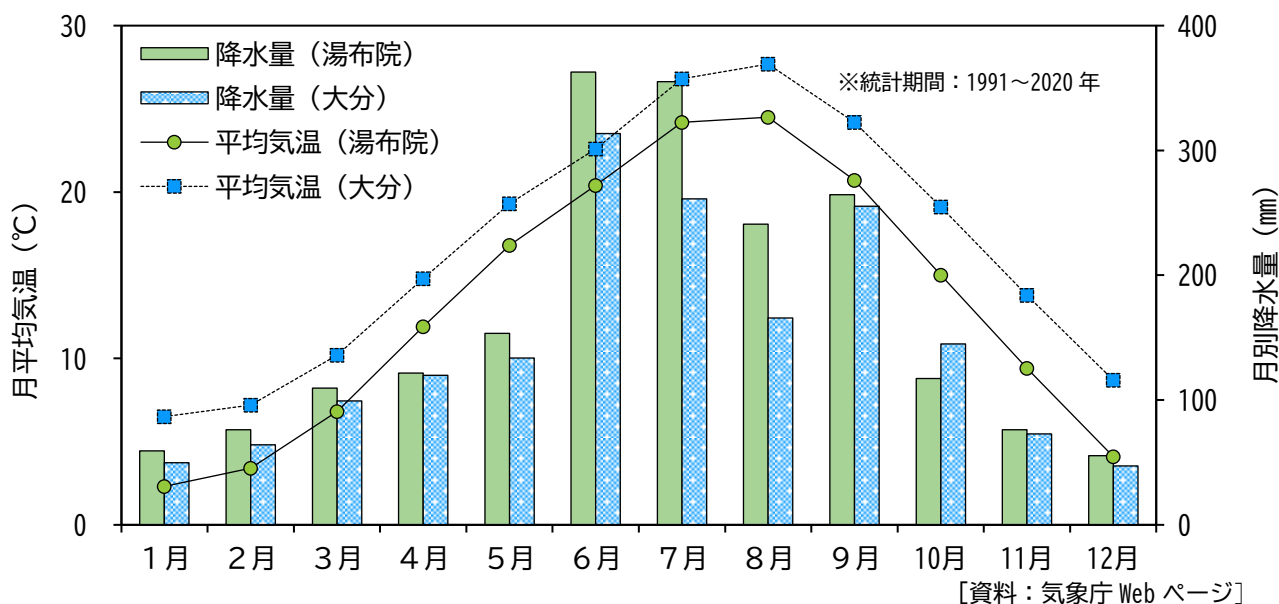


図3-2 月別降水量と月平均気温の推移

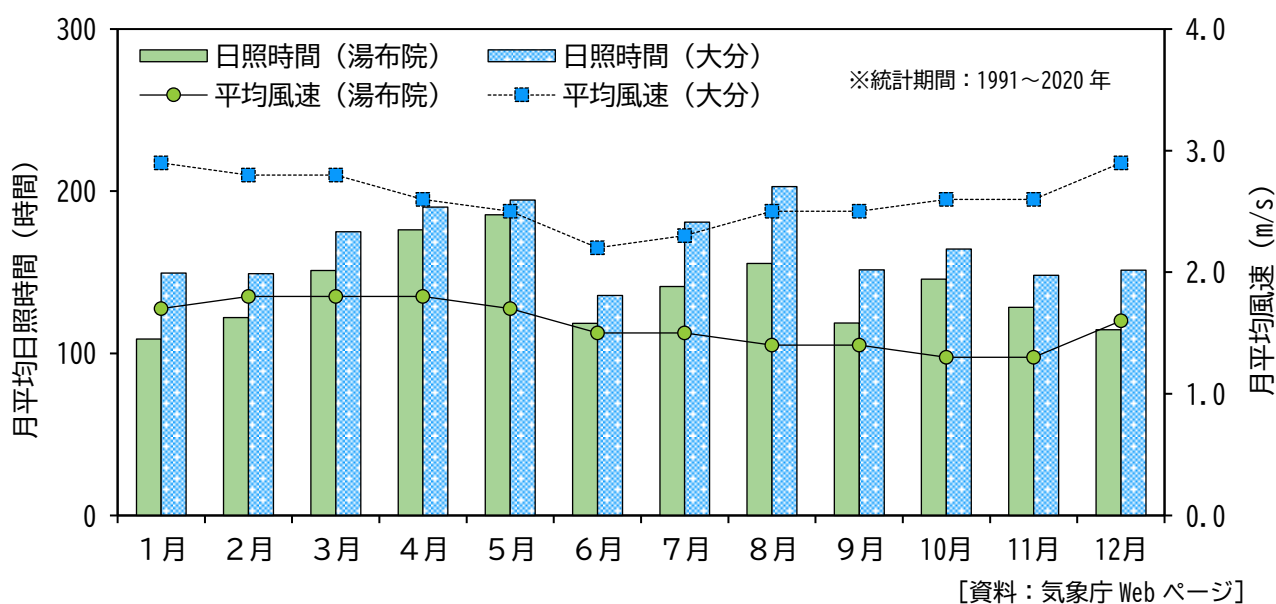


図3-3 月平均風速と月平均日照時間の年平均値の推移

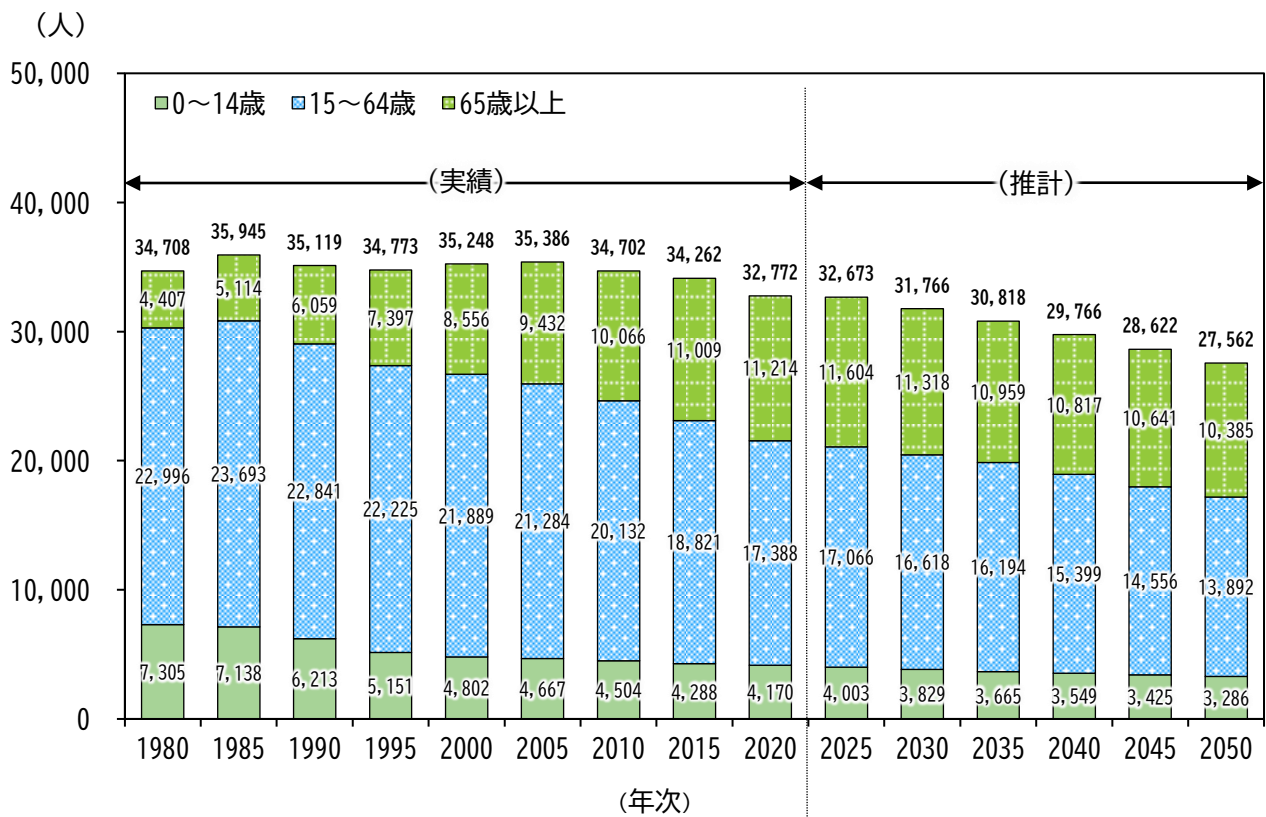
2 | 社会的条件

(1) 人口・世帯数

由布市の人口は近年減少傾向にあり、2020年の人口は32,772人となっています。高齢化も進んでおり、2020年時点で65歳以上の人口は3割を超えています。

「由布市まち・ひと・しごと創生 由布市人口ビジョン第2期版」によると、2050年には27,562人（2020年の人口の約8割）まで減少すると推計されています（国立社会保障・人口問題研究所 推計準拠）。

由布市では、子育て支援・出生率向上対策などに関する施策を展開することで、2060年に人口26,500人を維持・確保することを目指しています。

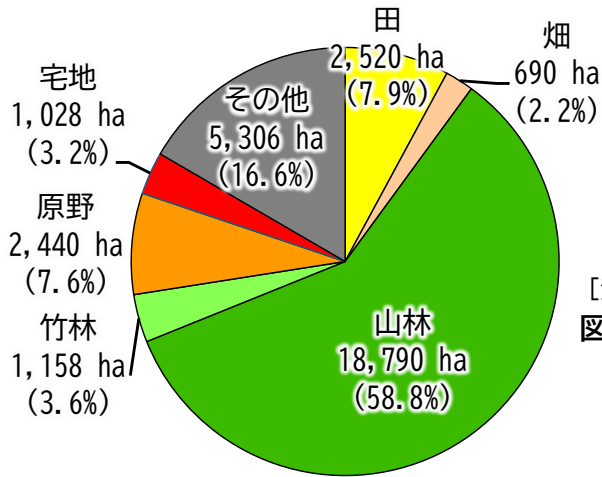


[資料：国勢調査（総務省統計局）（昭和55年～令和2年）
由布市まち・ひと・しごと創生 由布市人口ビジョン第2期版（令和7～令和32年）]

図3-4 由布市の人口の推移と将来見通し

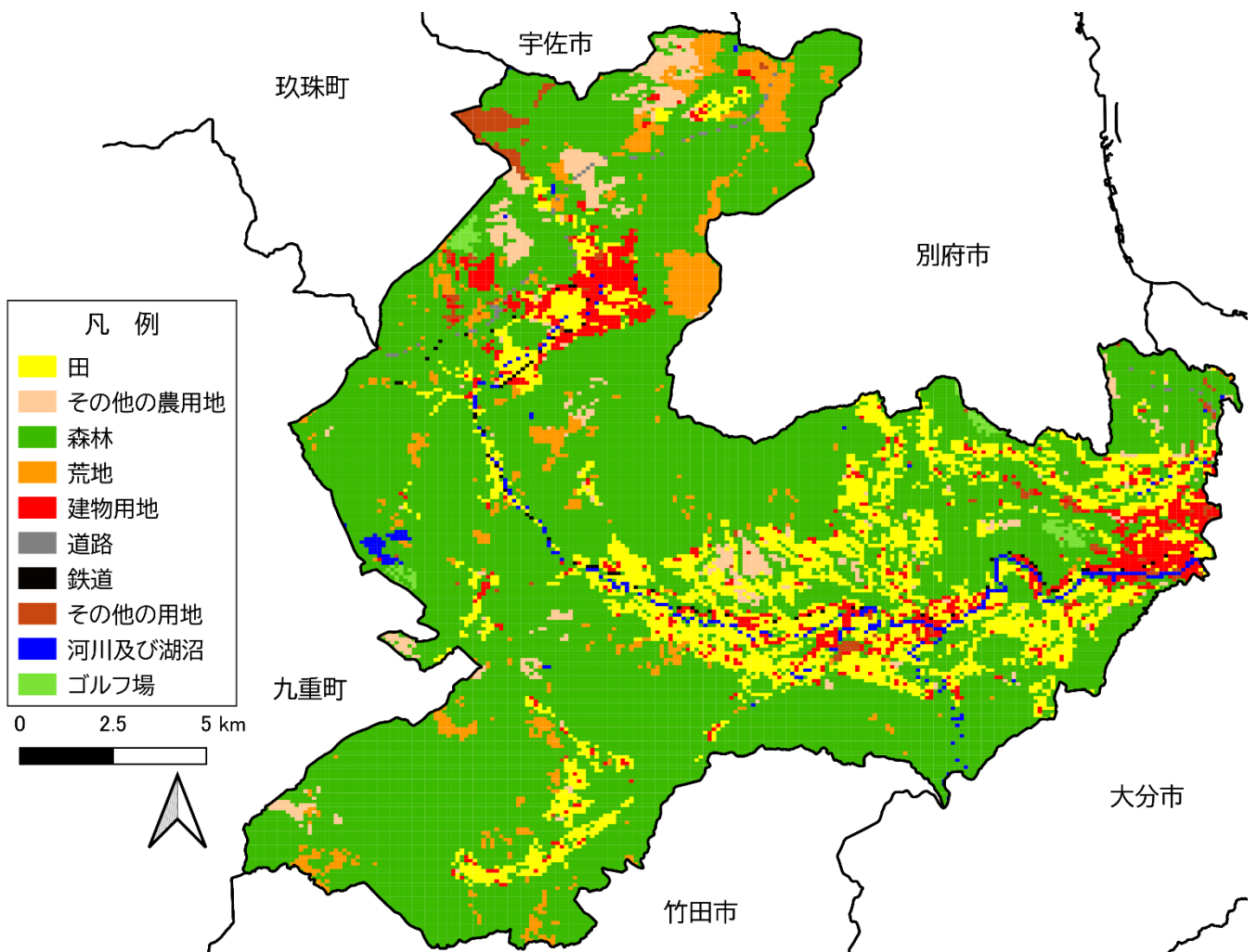
(2) 土地利用

由布市は、市域の約7割を山林・竹林・原野が占めるなど、自然豊かな地域です。建物用地は由布院駅周辺や、挟間地域の大分市に近い場所に集中しています。



[資料：大分県統計年鑑 令和6年版]

図3-5 地目別土地面積



[資料：国土交通省 国土数値情報]

図3-6 土地利用現況図 (2021年度)

(3) 地域交通

市内には大分自動車道や国道 210 号等が整備され、挟間地域・庄内地域・湯布院地域及び他都市を結ぶ道路ネットワークが形成されています。

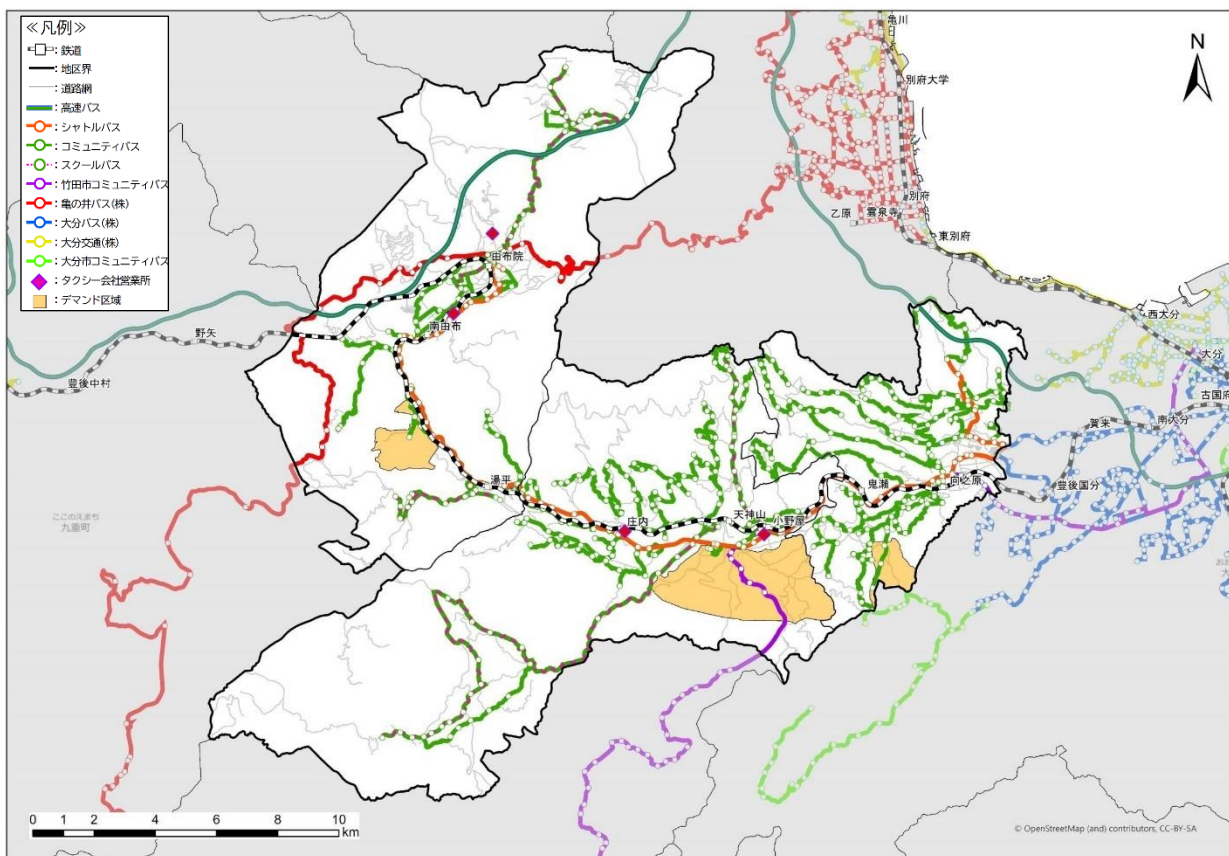
鉄道は、由布院駅など 8 つの駅を有し、JR 久大本線が運行しています。

バス交通は、高速バスや路線バス（亀の井バス、大分バス）、九州産交バスが運行する定期観光バスがあります。

タクシーは、大分県タクシー協会に加盟している事業者が 4 社あります。

市が運行主体のコミュニティバス（ユーバス）は、計 31 路線（地域内を運行するコミュニティバス 24 路線、スクールバス 4 路線、3 地域を結ぶシャトルバス 3 路線）あります。

これらの交通サービスにて、市内を概ね網羅する形で、面的に公共交通ネットワークが形成されています。



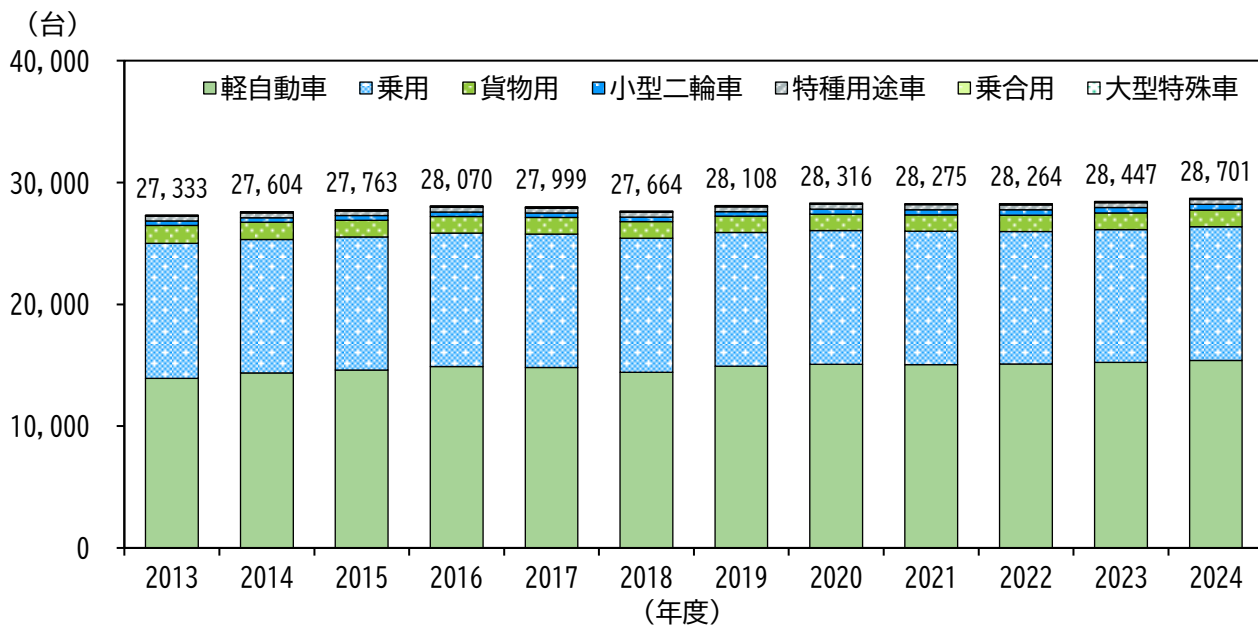
[資料：由布市地域公共交通計画 令和 6 年 3 月]

図 3-7 公共交通ネットワーク

(4) 自動車

2024年度の由布市の自動車保有台数は28,701台であり、2013年度と比べると約1,400台増加しています。

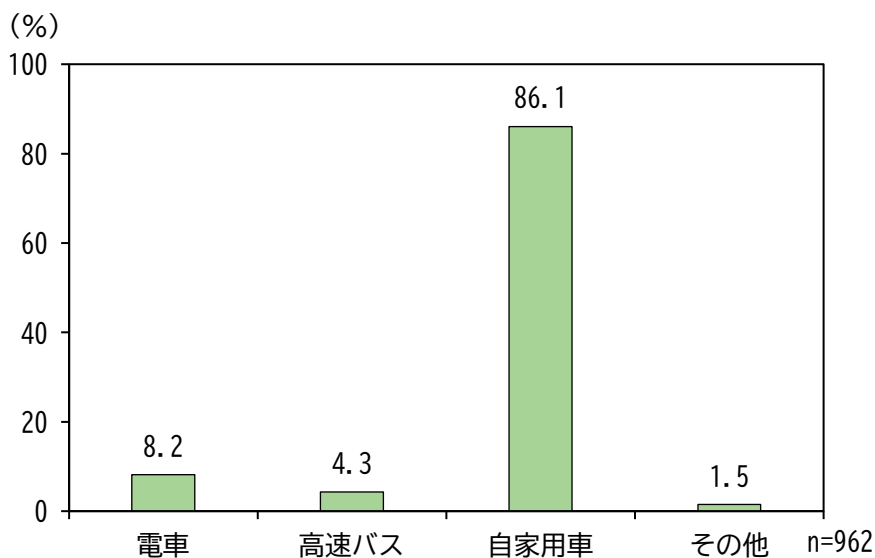
車種別で見ると、軽自動車及び乗用車が大半を占めています。



[資料：大分県統計年鑑]

図3-8 車種別自動車保有台数の経年変化

「由布市観光基本計画（2022年2月）」によると、由布市を訪れる観光客の移動手段の大半が自家用車となっています。



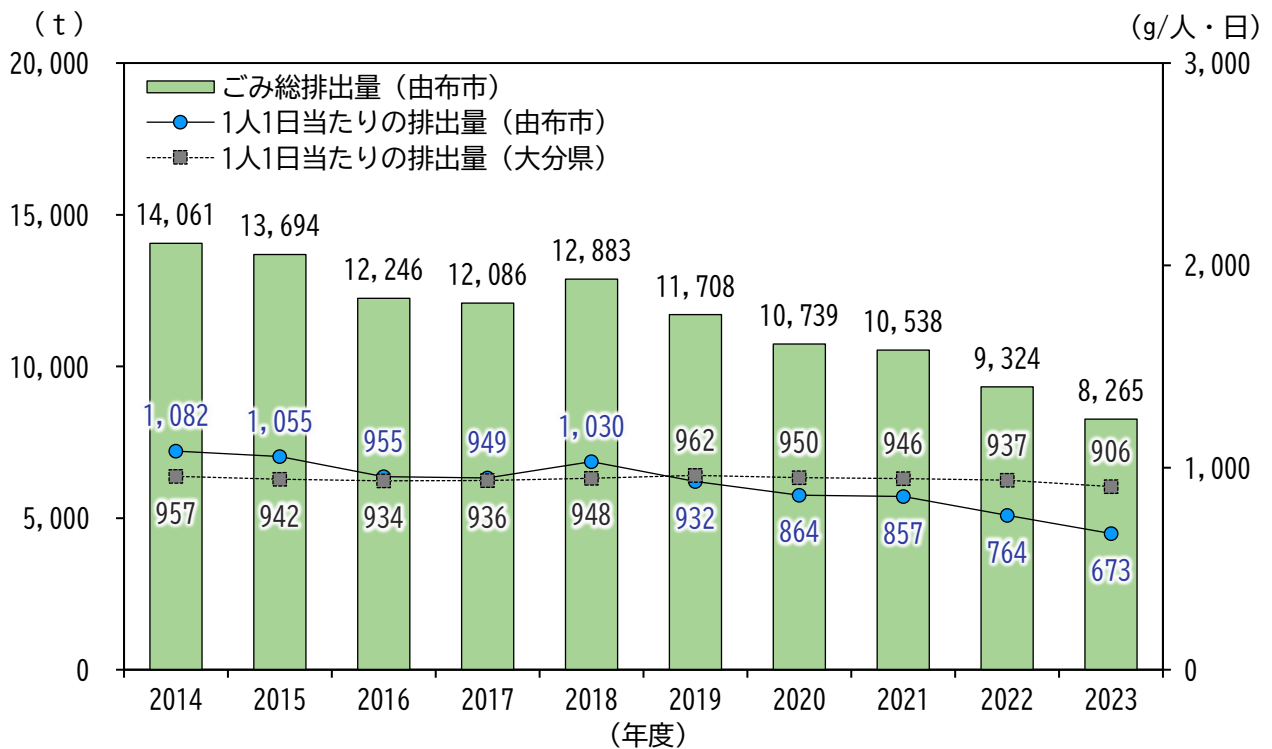
[資料：由布市観光基本計画（2022年2月）]

図3-9 由布市を訪れる観光客の移動手段

(5) 廃棄物

由布市のごみ総排出量は、経年的に減少傾向で推移しています。

1人1日当たりの排出量も減少しており、2019年度以降は大分県平均よりも少なくなっています。



[資料：一般廃棄物処理実態調査結果（環境省）]

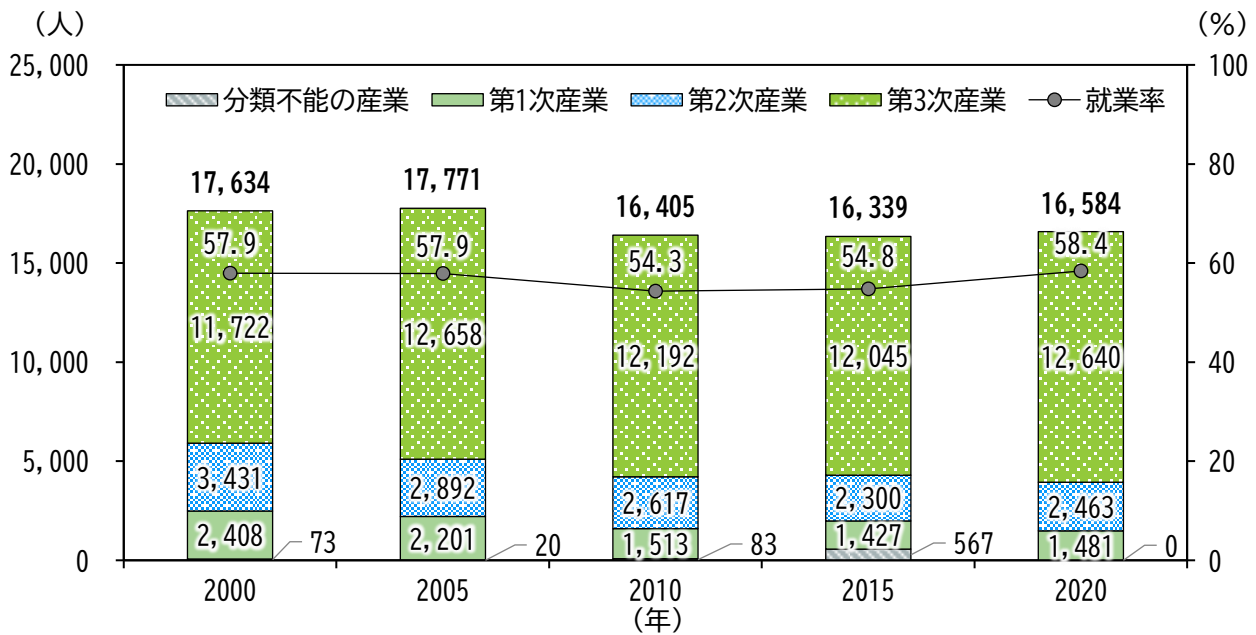
図3-10 ごみ総排出量と1人1日当たりの排出量の推移

3 | 経済的条件

(1) 産業構造

由布市の就業人口は、2005年度から2010年度にかけて減少した後、横ばいで推移しています(図3-11)。産業大分類別にみると、第3次産業の就業人口が最も多くなっています。

産業大分類別総生産額の割合を大分県と比べると、由布市は第2次産業の割合が低く、第3次産業の割合が高くなっています(図3-12)。



[資料：国勢調査(総務省統計局)(平成12年～令和2年)]

図3-11 就業人口の推移

[資料：令和3年度 大分の市町村民経済計算]

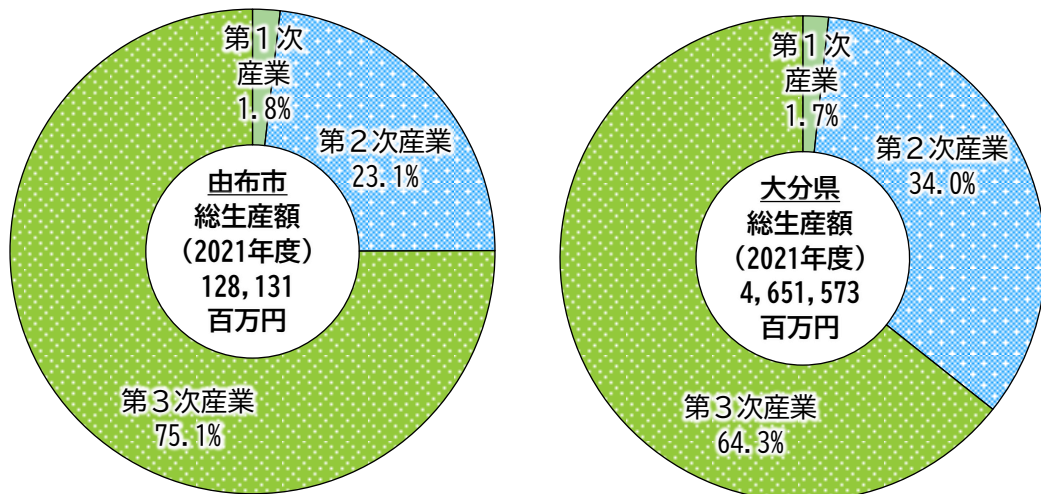


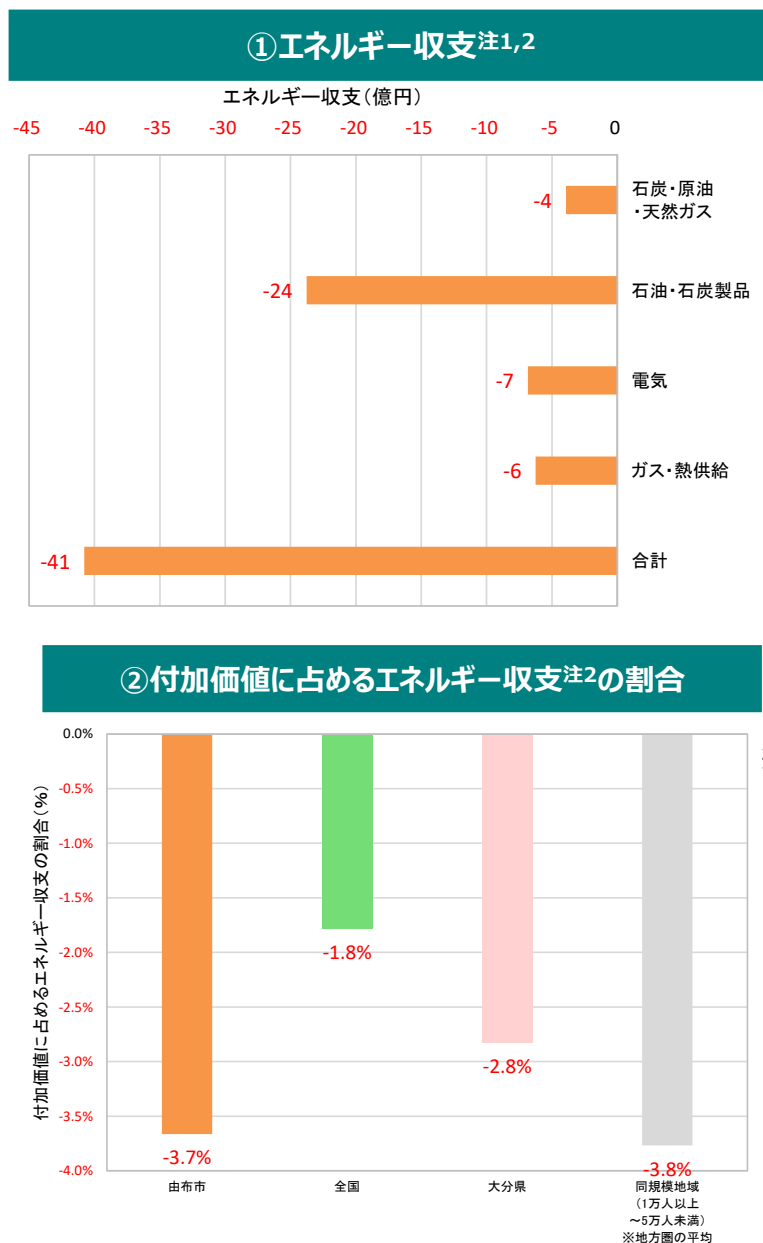
図3-12 産業大分類別総生産額の割合

(2) エネルギー収支

由布市のエネルギー収支※をみると、年間約41億円のエネルギー代金が市外に流出しており、特に「石油・石炭製品」の赤字が大きくなっています。

また、全国や大分県と比較してエネルギー代金の流出割合が高くなっており、地域でのエネルギー需要を地域内のエネルギー生産では賄いきれていないことが分かります。

※「エネルギー収支」とは、エネルギーの地域外への販売額(移輸出)から地域外からの購入額(移輸入)を差し引いたエネルギーの取引に関する収支であり、エネルギー収支の赤字が大きい地域はエネルギーの調達を域外に依存している地域とされます。



※地域の産業生産における付加価値額を労働生産性とみなし、地域のエネルギー生産性との両立がなされているか評価されています。

注1) 「石炭・原油・天然ガス」のエネルギー収支は、本データベースの「鉱業」の純移輸出に全国平均の「鉱業」に占める「石炭・原油・天然ガス」の純移輸出の割合を乗じることで推計されています。

注2) エネルギー収支には原材料利用や本社・営業所等の活動(=非エネルギー)は含まれません。

[資料: 由布市の地域経済循環分析【2020年試行版】(環境省、株式会社価値総合研究所)]

図3-13 由布市のエネルギー収支